

授業科目名	芸術文化・観光プロジェクト実習 3	担当教員	小畑 克典 島津 太一
必修の区分	選択		近藤 のぞみ 石井 路子
単位数	2 単位		野津 直樹 深澤 南土実
授業の方法	実習		河村 竜也 崔 光雄
開講年次	3 年 第 2 クォーター		寺田 卓矢 岡元 ひかる 小島 寛大 安藤 竜 島村 和秀 山谷 典子
講義内容	<p>芸術文化・観光プロジェクト実習 1 および 2 で修得した基礎的知識・技能を踏まえて、芸術文化・観光プロジェクト実習 3 では、芸術分野および観光分野を関連させたプロジェクトに、企画運営スタッフの中心として参画するグループと、より広い視野と具体的な課題意識を持って海外の国際的な演劇祭を現地調査するグループに分かれて実習を行う（ただし、実習先の受入都合により、いずれかの実習のみの実施となる可能性もある）。これにより、芸術文化および観光の両分野に必要な知識と技能を修得し、さらに専門演習や将来の進路と結びつけ、自らの関心分野に即して新たな企画提案ができるようになる。</p> <p>グループによっては、実習 1 および実習 2 の実習生のコーディネートを行うこともある。実習を通じたリーダーシップ経験から得られた主体的な共創の経験をもとに、今後、芸術文化と観光の双方の視点から新たな企画提案ができる力を身につける。</p>		
到達目標	<p>① 芸術文化および観光の両分野に必要な専門的知識と技能を身につけることができる。</p> <p>② 国際的な演劇祭の企画運営グループまたは海外調査グループの中でリーダー的な役割を務めることができる。</p> <p>③ 自らの関心、強みを生かし、次年度に向けて芸術文化と観光の双方の視点から新たな企画を提案できる。</p>		
授業計画	<p>事前学習として、実習先となる芸術文化・観光プロジェクトに関して概要を理解した上で、実習指導者等との顔合わせののち、実習計画を作成する。</p> <p>実習現場として参加するグループでは、各グループに個別に参画するだけでなく、各グループ間を媒介するアイデアと、それを実現するスキルの発見および開発に最大限の関心を払う。</p> <p>実習中は、実習指導者等による指導を受けることで、各グループの中心メンバーとしてプロジェクトの企画運営または海外における現地調査に従事し、芸術文化と観光の双方の視点から国際的な演劇祭の実情への理解を深めながら実習を行う。その際、グループによっては実習 1 および実習 2</p>		

	<p>の学生のコーディネートも行い、プロジェクトリーダーのための資質を磨く。その間、日報を記録し、適宜実習指導者等から指導を受ける。</p> <p>中間時点および最終日には、芸術文化と観光の双方の視点から学生による報告会を実施し、実習指導者等との意見交換会を実施する。</p> <p>実習後に完了報告書を作成し、実習で得た経験と知識を総括する。</p>
事前・事後学習	実習計画の作成、実習日報の記録をふまえて中間・最終報告を行う。
テキスト	特になし
参考文献	授業内で適宜紹介する。
成績評価の基準	実習の態度（40%）、日報（30%）、実習報告書・プレゼン（30%）
履修上の注意 履修要件	芸術文化・観光プロジェクト実習2又は海外実習を履修済みであること。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は、志望理由等をもとに選考する。 芸術文化・観光プロジェクト実習4との同時履修が望ましい。